

令和2年度事業報告

令和2年度は、世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症により、私たちの暮らしやスタイルが一変し、今もなお感染拡大の終息が見えない状況にある。

このような中、県内の法人会においては、ほとんどの事業や会議を中止せざるを得ない状況となり、組織の強化を図ることが大変難しい年であった。

1. 公益目的事業の活動支援

そのような状況にあつて、青年部会が行う「租税教室」や女性部会が行う「税の絵はがきコンクール」と「手作り雑巾の贈呈」事業は、コロナ禍でも学校側が快く受け入れて頂き、ほぼ例年に近い数の実施が出来た。また、企業支援の一環でもある各種研修会は、定員の縮小や徹底した感染予防対策のうえ安心して受講できるような環境の確保に努めた。

特に、コロナ禍において公益法人に求められている感染症対策として、各地で学校に「消毒液」や「検温器」を贈ったり、「こども食堂」に寄付金を贈ったりして、法人会として社会に果たす役割を担った。

2. 組織運営と財政基盤の強化

令和2年度は、新型コロナ感染拡大の影響により、加入勧奨が難しい状況にあつたため、新規加入数が少なく会員数は大きく減少した。福利厚生制度の推進についても、苦戦をしいられた。

また、コロナ禍により、支部等における交流会を開催することが出来ず、法人会のメリットである会員同士の情報交換の機会が減ることとなった。

一方、全法連や南九連とのやり取りはもちろん、県内の青年部会においても、積極的にリモートを活用した会議の開催やライブ配信による研修会の開催を行う等、会員間の情報交換に努め、新たな組織運営の構築を図った。

3. 公益法人制度が求める法人会運営・管理の強化

このような中で、県連は、コロナ禍による理事会・総会の運営や、剰余金の取扱いに注意を行う必要性があつたことから、各単位会への指導を行った。